The way is open where there is a will

～意志あるところに道は開ける～

キャリア教育部通信　第３号

令和４年６月１日

中学生の皆さんへ

キャリア教育部

人それぞれに何かしら才能があります。ただ眠っている自分の才能に気がついていないだけです。気がつくためにはどうしたらよいのでしょうか。自分自身を磨いていくことです。今回は、「自分力」の磨き方　益川敏英著　ブックマン社　の内容の一部を紹介します。

自分力を磨いて、眠っている才能に気がつきましょう！

私が考える「自分力」の第一の定義とは、「好きなこと」「興味のあること」をとことんまで突きつめて、結果へとつなげられる力のことです。

自分の好きなことを見つけ、それについて深く考えて追及し、そして結果を出す。そのプロセスは問いません。ひとりで結果を出してもいいし、ひとりで実現するのが難しければ、自分でチームを作ってもいい。つまり、「個人力」であれ「チーム力」であれ、それはあくまでもプロセスの一つであって、**大切なのは目標へとアプローチするための推進力**なのです。

この推進力となるのが、自分が好きなことに気づき、それを追求し続け、時に周囲の人々を巻き込むことができるわがままさ、自分勝手さ。それこそが「自分力」と言えるのです。

これから社会へと巣立っていく学生たちを見ていると、最近は仕事を取り巻く環境が大きく変わっているな、と感じます。終身雇用、年功序列といった、いわゆる日本型経営は過去のものとなり、いまや政官民一体となって雇用のさらなる流動化を推進しています。

雇用が流動化するということは、**どの企業に勤めるかということではなく、一人ひとりの能力に応じた職種に就くということになります。**これは、私たち研究者の仕事と似ています。ビジネスの世界も、いずれ研究職と同じように、プロジェクトごとに専門性の高い分野で活躍できる人を集めて経営していく、というスタイルに変化していくのかもしれません。

現代は変化のスピードが速く、先が見えにくい時代と言われています。そんななかで、「憧れ」や「夢」といった自分の興味・関心を追求し続けることは、次第に難しくなってきているのかもしれません。だからこそ、私たち一人ひとりが「自分力」を高め、それぞれの

「憧れ」や「夢」を追求することが、今後の日本社会においてとても重要になってくるはずです。それはなにも、研究者の世界に限ったことではありません。

ただし、突然「自分の興味・関心」を追求すべき、と言われてもなかなかすぐに実行できるものではないでしょう。そのためにはまず、**自分自身のことをしっかり見つめ直す**ことから始めなくてはなりません。

「今」の自分にとっての「興味・関心」をきちんと意識して、次のステップを目指すこと。そうすることで、「自分力」は着実に高まっていくのです。

もし、「好きなこと」や「興味のあること」に出会えていないなら、まずは**「まだ自分がやっていないこと」にチャレンジ**してみましょう。既存の価値観にとらわれず、「今までの人生で経験していないこと」に挑戦してみるのです。そうすれば、きっと「これは自分には向いていないなあ」あるいは「やっていて楽しいな」といったことが見えてくるはずです。これこそが、才能の種なのです。

才能は誰にでもあります。誰にでも、他の人にはできないことを実現できる可能性があるということです。ただし、その才能に気づくかどうか、その才能を発揮できるかどうかは、その人次第。きちんと自分を見つめ直し、得意なこと、好きなことを発見できさえすれば、その才能を磨いて開花させることが可能になるのです。

人生、「自分を見つめなおす→チャレンジ」の繰り返しです。自分を見つめなおすために、本があり、友人がいるのです。一人で分析するのもいいですが、「自分とは何か」を友人とお互いに会話を重ねることも大切です。新書もたくさん読みましょう。

つばさ総合高校では、科目選択の際に「受験科目だけで考えてはいけない。自分力を磨くために必要な力は何なのか。それをベースに自分の人としての魅力全体を高めることもしっかり考えてください。学べば学ぶほど心は広がっていきます。」と伝えています。

科目選択だけではありませんが、人生において失敗した選択などありません。

自分で判断した選択はすべて正しいのです。

The strongest principle of growth lies in the human choice.